

南アフリカ共和国

Republic of South Africa

①人口：4,869万人 (2008年央, 推計値) ②面積：121万9,090km ² ③1人当たりGDP：5,693米ドル (2008年)		2006年	2007年	2008年	
	④実質GDP成長率 (%)	5.3	5.1	3.1	
	⑤貿易収支 (ランド)	△408億7,200万	△405億3,100万	△355億5,900万	
	⑥経常収支 (ランド)	△1,101億9,800万	△1,460億7,600万	△1,691億5,000万	
	⑦外貨準備高 (米ドル)	230億5,690万	295億8,860万	305億8,350万	
	⑧対外債務残高 (米ドル)	593億9,600万	752億7,500万	775億2,500万*	
	⑨為替レート (1米ドルにつき, ランド, 期中平均)	6.77	7.05	8.26	
	(注) *9月末時点 (出所) ①④：南アフリカ共和国統計局, ②南アフリカ共和国政府, ③⑦⑨：IMF, ⑤⑥⑧：南アフリカ共和国準備銀行				

2008年の実質GDP成長率は、国内需要の伸びが鈍化したことから、3.1%にとどまった。貿易は輸出入ともに堅調に推移したが、ランド安が輸出を下支えしたことから輸出の伸びが輸入のそれを上回った。対内直接投資では、電力インフラ整備や通信分野で活発な動きがあった。対日貿易では消費市場の低迷で、乗用車を中心とする輸送機器が輸出入とも不振だった。

国内需要の伸びが鈍化し成長低下

南アフリカ共和国（以下、南ア）の実質GDP成長率は3.1%となり、2005年から続いていた5%台から低下した。これまで耐久消費財を中心とした家計最終消費支出の伸びが南ア経済を牽引してきたが、2008年は前年比2.3%増（2007年は6.6%増）と鈍化した。産業別では、世界需要の低迷の影響を受けた自動車産業を中心に製造業部門（1.2%増）が伸び悩んだ。一方、電力公社エスコムの大規模な設備投資や2010年サッカー・ワールドカップ開催に向けたインフラ整備がみられ、建設業は13.9%増と前年に引き続き好調だった。2008年9月以降、世界的な経済危機に伴う海外からの資本流入の減少で、2008年にランドはドルに対して前年比14.7%下落した。

ランド安による輸出競争力強化で赤字縮小

南ア歳入庁によると2008年の貿易（通関ベース）は、輸出が前年比34.9%増の6,630億9,979万ランド、輸入は同29.4%増の7,276億3,223万ランドとなった。貿易収支は645億3,244万ランドの赤字となったが、2007年の707億6,338万ランドから赤字幅は縮小した。これは年上期の資源価格の高騰と、大幅なランド安が輸出を下支えしたためである。

輸出を品目別にみると、最大シェアを占める貴金属・貴石では、同品目全体

の約半分を占めるプラチナ（前年比15.1%増）、約3割を占める金（22.0%増）、約1割を占めるダイヤモンド（6.0%増）が価格上昇により増加した。数量ベースではプラチナは前年比約9割減、金は約3割減、ダイヤモンドは約6割減と急減した。2008年のプラチナ国際価格の平均値はドル建てで前年比20.5%、ランド建てでは37.0%上昇した。プラチナの輸出はここ数年、自動車用触媒や産業用需要の高まりを受け拡大していたが、金融危機に伴う価格下落や世界的な自動車需要の低迷で、2009年はその伸びは鈍化するとみられる。

鉱物性生産品では、石炭（62.7%増）のほか鉄鉱石（79.0%増）やマンガン鉱石（408.5%増）が増加した。鉄鉱石は中国、日本、ドイツなどが主要輸出先となっている。卑金属・同製品ではステンレスの主原料となるフェロクロムや、フェロマンガンが大幅に増加した。2008年初旬に発生した電力不足による鉱山操業の停止で供給が低下し、価格が急騰したことが影響している。数量ベースではいずれも約1割減となった。

表1 南アフリカ共和国の主要品目別輸出入 <通関ベース>

(単位：100万ランド, %)

	輸 出 (FOB)				輸 入 (FOB)			
	2007年		2008年		2007年		2008年	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
動植物生産品・食料品類	31,197.4	47,556.8	7.2	52.4	29,992.0	39,269.8	5.4	30.9
鉱物性生産品	78,361.7	120,770.7	18.2	54.1	109,783.5	172,622.0	23.7	57.2
化学製品	27,211.2	40,724.8	6.1	49.7	45,531.6	64,703.3	8.9	42.1
貴金属・貴石など	133,269.9	152,755.5	23.0	14.6	8,939.7	9,377.4	1.3	4.9
卑金属・同製品	89,310.9	114,555.7	17.3	28.3	29,576.6	36,107.5	5.0	22.1
一般機械・電気機械	52,937.8	64,778.4	9.8	22.4	143,998.8	186,156.5	25.6	29.3
輸送機械	43,656.0	67,837.1	10.2	55.4	67,723.5	71,261.2	9.8	5.2
自動車国内生産のための部品輸入	-	-	-	-	40,476.6	48,155.5	6.6	19.0
合 計	491,461.8	663,099.8	100.0	34.9	562,225.2	727,632.2	100.0	29.4

〔出所〕表2とも、南ア歳入庁。

表2 南アフリカ共和国の主要国別輸出入<通関ベース>

(単位：100万ランド、%)

		輸 出 (FOB)				輸 入 (FOB)				
		2007年		2008年		2007年		2008年		
		金 額	金 額	構成比	伸び率	金 額	金 額	構成比	伸び率	
日 本	50,400.0	66,465.9	10.0	31.9	ド イ ツ	65,559.9	82,417.2	11.3	25.7	
米 国	52,611.8	65,563.4	9.9	24.6	中 国	60,289.4	82,411.2	11.3	36.7	
ド イ ツ	35,349.7	47,428.9	7.2	34.2	米 国	43,074.8	58,146.7	8.0	35.0	
英 国	34,455.5	40,101.5	6.0	16.4	サウジアラビア	25,378.5	45,945.8	6.3	81.0	
中 国	28,013.3	35,244.0	5.3	25.8	日 本	36,975.5	40,603.5	5.6	9.8	
オランダ	19,855.2	28,341.7	4.3	42.7	英 国	27,144.3	29,528.9	4.1	8.8	
インド	9,507.4	18,652.0	2.8	96.2	イ ラ ン	20,802.4	27,374.2	3.8	31.6	
ベルギー	12,421.7	16,735.1	2.5	34.7	ア ン ゴ ラ	11,583.7	22,348.9	3.1	92.9	
ザンビア	10,069.5	16,074.5	2.4	59.6	フ ラ ン ス	18,834.3	20,777.7	2.9	10.3	
スペイン	12,951.6	15,354.8	2.3	18.6	イ ン ド	12,506.3	18,813.2	2.6	50.4	
ジンバブエ	8,399.7	13,810.9	2.1	64.4	イ タ リ ア	15,604.6	17,725.6	2.4	13.6	
合 計	491,461.8	663,099.8	100.0	34.9	合 計	562,225.2	727,632.2	100.0	29.4	

一般機械は、排ガス用ろ過機・清浄機が前年比11.8%増となったが、これは排ガス浄化触媒として使われているプラチナ価格の上昇によるもので数量ベースでは約1割減となった。電気機械では、主要輸出相手国のドイツのほか、好調な経済を背景にコンゴ民主共和国、ザンビアなどのアフリカ諸国向けを中心に増加した。輸送機械は、乗用車が84.0%増となったほか、貨物自動車も42.2%増と好調だった。乗用車は65%を占める排気量1500～3000ccクラス(ガソリンエンジン)が40.3%増と好調だった。これはメルセデス・ベンツが、2007年に新型Cクラスのテスト生産のため数カ月停止していた工場操業を再開したことによる。

輸出を国・地域別にみると、インド向けが前年比96.2%増と急増し、輸出相手国7位に浮上した(2007年12位、2006年16位)。同国の製造業生産の伸びを反映して、無機化学品、鉱物性燃料、鉄鋼製品などが大幅に増加した。日本に次ぐ輸出相手国2位の米国向けは、前年比24.6%増となった。最大の輸出品目である貴金属・貴石はプラチナ輸出の低迷で減少したが、自動車、卑金属・同製品、一般機械がそれぞれ堅調に伸びた。

サブサハラ・アフリカ地域では南部アフリカ開発共同体(SADC)向けが拡大し、シェアの高いザンビア向け(59.6%増)、ジンバブエ向け(64.4%増)、モザンビーク向け(46.4%増)、コンゴ(旧ザイル)向け(107.8%増)が軒並み高い伸びを示した。主な上位品目は、一般機械、輸送機械、鉱物性燃料、鉄鋼であるが、経済危機が続くジンバブエ向けでは一般機械のほか、メイズや玉米などの穀物や石油が上位品目となっている。

全体の約3割を占めるEU25向けは前年比30.1%増で、上位品目は一般機械、貴金属・貴石、卑金属・同製品となっている。EU25のうち最上位国のドイツ向けは、排ガス用のろ過機・清浄機などの一般機械が、続く英国向

けではプラチナ、オランダ向けでは石炭が上位品目となっている。東アジア向けでは、日本が最大の輸出相手国であり、次いで中国となっている。中国向けは鉱物資源を中心に、2006年前年比60.1%増、2007年99.8%増と高い伸びを見せていたが、2008年は25.8%増と伸び率はやや鈍化した。同国向けでは、鉄鉱石、マンガン鉱石、プラチナが急増する一方で、フェロアロイや鉱物性燃料は減少した。

南ア政府が95年に自動車産業開発プログラム(MIDP)を導入して以降、自動車輸出台数は堅調に推移している。2008年9月にはMIDP失効(2012年)後の支援策として自動車生産開発プログラム(APDP)が発表され、内容は輸出補助から国内生産への補助に変更されるものの自動車産業優遇措置の継続が決定した。これを受け南アを輸出拠点と位置付け生産活動を行う世界の自動車メーカー各社は、生産・販売・輸出体制を強化し投資戦略を本格化させている。一方で経済危機に伴う世界的な需要低下の影響が深刻化し、2008年後半に入り各社は生産調整や従業員のレイオフを余儀なくされた。

一方、輸入では、最大品目の一般機械で、国内の消費拡大に伴いコンピュータ・同部品(前年比16.6%増)が堅調に伸びたほか、政府によるインフラ整備への投資拡大で自走式ブルドーザーやメカニカルショベルなどの建設機器(16.1%増)、発電設備用のガスタービン(86.9%増)が伸びた。

鉱物性生産品では、8割弱を占める原油が数量ベースでは前年比4.6%減だったものの、価格上昇により金額ベースでは61.9%増となった。サウジアラビア、イラン、アンゴラからの輸入額が大幅に伸びたのは、輸入額の9割以上が原油であることが原因である。輸送機器は、政府が軍用機の調達を拡充したため航空機(前年比62.8%増)の輸入が増加した一方で、乗用車(26.4%減)、貨物

自動車（1.7%減）は国内消費の冷え込みによりともに減少した。乗用車は上位輸入相手国であるドイツ、日本、英国からの輸入が軒並み減少した。

国・地域別にみると、EU25カ国では最大輸入相手国のドイツ（25.7%増）、スウェーデン（65.7%増）、ベルギー（34.7%増）などが大幅増となった。ドイツからは国内生産用自動車部品のほか、ガスタービン（54倍）が増加した。ガスタービンの増加は、電力公社エスコムが西ケープ州で建設中のガス火力発電所用のガスタービンをシーメンズが大型受注したことによる。EU25カ国からの増加した主な輸入品目としては一般機械のほか、英国では電気機器が、スウェーデンでは航空機や電気機器が、ベルギーでは有機化学品がそれぞれ挙げられる。

アジア諸国では、輸入相手国2位である中国からの輸入が大幅に伸びた（36.7%増）。増加したのは、携帯電話や発電機などの電気機械、コンピュータおよび同部品をはじめとする一般機械が中心だ。価格競争力のある中国製のコンピュータ・同部品は、南アの同品目の対世界輸入額の4割以上を占めている。韓国からは、自走式ブルドーザー、メカニカルショベルなどの一般機械が増加したものの、乗用車や電気機械が減少したことから全体では5.3%減となった。

米国からは、自走式ブルドーザー、メカニカルショベルやガスタービンなどの一般機械のほか、電気機械、航空機などが増加した。輸送機械では貨物自動車やトラクターが増加したものの、乗用車（21.7%減）は減少した。アフリカ諸国では、前述のアンゴラからの原油（88.7%増）以外にも、モザンビークからの天然ガス（67.5%増）、ジンバブエからのニッケルマット（36.9%増）などが増加した。

2008年8月には南部アフリカ開発共同体（SADC）が自由貿易地域（FTA）を発足させた。FTAにはSADC加盟国のうちアンゴラ、コンゴ民主共和国を除く12カ国が参加する。2008年8月時点でFTA参加12カ国間の貿易品目の85%が無税で、残りの15%は2012年までに関税撤廃を目指している。そのほか、通関手続き、関税分類と通関書類の統一、国境での通関手続きにおけるワンストップサービスの提供などを通じて貿易を円滑化させるとしている。市場拡大により域内貿易の促進、経済発展、雇用創出が見込まれるが、加盟国間の経済格差、域内インフラの未整備、他協定との整合性の確保など課題は多い。

■電力インフラ整備、通信分野で活発な投資

南ア準備銀行によると、2008年の対内直接投資（国際収支ベース、ネット、フロー）は前年比85.3%増の743億4,100万ランドとなった。対内直接投資が大幅に増加した

のは、2007年10月に発表された中国工商銀行による大手金融機関スタンダード・バンク・グループへの20.0%の資本参加（367億ランド）が計上されたことによる。この資本取引は2002年以降では最大規模となる。

電力分野では、8月に英国系投資ファンドのアクティスを中心としたコンソーシアムによるアルストム・サウスアフリカの買収（51億6,000ランド）が発表された。電力公社エスコムが大規模な設備投資を進めていることから、アクティスは発電機やボイラーなどの需要拡大に伴うビジネス成長を期待している。11月には同じく電力分野で、エネルギーを専門とする米国系投資ファンドのデンハム・キャピタルによる、再生可能エネルギー事業者バイオサーム・エナジーへの資本投資（15億ランド）が発表された。デンハム・キャピタルによると、南アでは電力危機への対策として電源の多様化が進められており、コジェネレーションやバイオマス発電などを含む小型発電設備市場は急成長が見込まれるとしている。

鉱業分野においては、8月にスイスの鉄鋼企業デュフェルコがハイフェルド・スチール・アンド・バナジウムのバナジウム事業を買収（12億ランド）した。9月にはアルセロール・ミタルが、カラガディ・マンガニーズと2007年11月に合意を発表したマンガン開発事業の権益50%取得（34億3,800万ランド）を完了した。

通信分野では、2008年の統計には未計上だが、大型案件では11月に英国ボーダフォンが携帯電話会社ボーダコムの株式15%をテレコムから追加取得（225億ランド）すると発表した。これによりボーダフォンの株式比率は50%から65%になる。同社は、西欧の携帯電話市場が飽和していることから、東欧諸国やアジア・中東アフリカなどの新興市場への進出を積極化している。ボーダコムは南ア市場で55%のシェアを占め、タンザニア、レソト、コンゴ（旧ザイル）、モザンビークにも進出しており、ボーダフォンは今回の株式追加取得によりアフリカ市場開拓戦略の強化を図るとしている。

一方、南アの対外直接投資額（国際収支ベース、ネット、フロー）は前年の208億9,600万ランドからマイナス291億5,600万ランドとなった。投資引き揚げが新規投資を上回るのは2003年以降初めてとなる。最大の要因は南ア投資ファンドのアール・アンド・アール・ホールディ

表3 南アフリカ共和国の対内・対外直接投資の推移

（単位：100万ランド）

	ネット、フロー（国際収支ベース）				残高
	2005年	2006年	2007年	2008年	2007年末
対内直接投資	42,270	△3,567	40,120	74,341	751,925
対外直接投資	5,916	41,058	20,896	△29,156	448,629

〔出所〕南ア準備銀行「四季報」2009年3月号。

表4 日本の対南アフリカ共和国主要品目別輸出入

(単位:100万ドル,%)

輸 出 (FOB)					輸 入 (CIF)				
	2007年		2008年			2007年		2008年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
工業製品	4,487	4,495	97.8	0.2	食料品, 動植物生産品	200	189	2.1	△5.3
化学製品	102	113	2.5	10.9	原料	1,780	2,525	28.3	41.9
機械機器	3,910	4,003	87.1	2.4	金属原料	1,311	2,031	22.8	54.9
一般機械	1,213	1,258	27.4	3.8	鉄	537	698	7.8	30.0
車両用ガソリンエンジン(1000cc超)	296	355	7.7	20.1	フェロクロム(炭素含有量4%超)	425	671	7.5	58.0
車両用ディーゼルエンジン	220	159	3.5	△27.8	マンガン鉄・鉄マンガン鉄(含む精鉄)	112	295	3.3	163.5
電気機械	275	245	5.3	△11.2	木材, コルク	408	419	4.7	2.8
輸送機械	2,366	2,325	50.6	△1.8	工業製品	5,683	6,117	68.6	7.6
乗用車	999	795	17.3	△20.4	化学製品	136	170	1.9	25.1
貨物自動車	585	622	13.5	6.3	機械機器	881	640	7.2	△27.4
精密機器	86	85	1.8	△2.0	輸送機械	837	599	6.7	△28.5
金属品	94	104	2.3	10.5	金属品	4,644	5,283	59.2	13.8
					未加工・粉状の白金	2,045	2,556	28.7	25.0
合 計	4,599	4,598	100.0	△0.02	合 計	7,709	8,920	100.0	15.7

〔出所〕財務省「貿易統計(通関ベース)」から作成。

ングスによるブリティッシュ・アメリカン・タバコ株式の原株主へのアンバンドリングに伴う資本移動(588億ランド)があったことである。そのほかの対外直接投資案件では、9月に南アの紙パルプ企業サッピーによるフィンランド企業エムリアルのコート紙部門買収(89億ランド)があった。通信分野では、12月にボーダコムによるアフリカ最大の通信事業者ゲートウェイ・コミュニケーションズの買収(53億9,000万ランド)が完了した。7月にはデイメンション・データがシンガポールのデータクラフト・アジアの株式44.9%を追加取得(27億8,200万ランド)し、完全子会社化することを発表した。そのほか、ジェネリック医薬品企業アスペン・ファーマシーによるインド企業ストライズ・アルコラボのブラジル、メキシコ、ベネズエラ事業の株式50%取得(12億ランド)などがあった。

■日本企業は自動車、資源分野で大型投資

日本の通関統計によると、2008年の南アへの輸出額は45億9,813万ドル(前年比0.02%減)、輸入額は89億2,016万ドル(15.7%増)であった。輸出の半分を占める輸送機械は南ア国内の消費減速に伴い前年比1.8%減と減少した。内訳をみると乗用車(20.4%減)、二輪車(29.4%減)、自走式作業トラック(60.2%減)が軒並み減少したほか、貨物自動車(6.3%増)も微増にとどまった。貨物自動車では最も割合の大きい5トン超20トン以下ディーゼルエンジン車は8.0%減となった。一般機械ではこれまで増加傾向にあった車両用ディーゼルエンジン(27.8%減)がマイナスに転じた。

南アからの輸入をみると、工業製品の6割を占める非鉄金属がプラチナやロジウムの輸入量増加に伴い13.8%

増となった。金属原料は、鉄鉄、フェロクロム、マンガン鉄の価格上昇を受け輸入額が大幅に増加した。輸送機器は2007年の12.4%減からさらに低下して2008年は28.5%減となった。中でも排気量1500~3000ccクラス(ガソリンエンジン)が50.9%減となった。これはBMW3シリーズの日本向け輸出が2007年の1万6,285台から2008年には52.7%減の7,703台(南ア自動車製造者協会)となったことによる。一方、排気量1000~1500ccクラス(同)はフォルクスワーゲンのゴルフやポロの輸出の伸びを反映して前年比68.7%増となり、このクラスでは南アが最大の対日輸出国となった。

日本の財務省統計によれば、2008年の南アへの対外直接投資額(国際収支ベース、ネット、フロー)は687億円となった。分野別では輸送機器(319億円)などの製造業で284億円、鉄業(372億円)など非製造業で403億円となった。主な案件では、トヨタ自動車が8月に南アフリカトヨタを完全子会社化(約300億円)したほか、ルノー・日産アライアンスが7月に南アでの新規生産プロジェクトに投資(約136億円)すると発表した。スズキは2月に二輪車と船外機の輸入販売代理店スズキ・サウスアフリカとの合弁で四輪車の輸入販売代理店であるスズキオート・サウスアフリカ(資本金約17億円、85%出資)を設立した。鉄業分野では、6月に住友商事が鉄鉄・マンガン鉄などの資源会社アソマンの株式20%を追加取得(約300億円)し、2007年1月以降に取得した株式29%と合わせて49%の権益を取得した。同社によると総額で450億円の投資となり、日本企業による南アへの投資額としては最大規模になる。